クイックスタートガイド

JP



SENTINEL SM1

Monitoring Unit for Networked Tannoy QFlex Systems

V 2.0

KLARK TEKNIK

JP

JP

安全にお使いいただくために

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK!
DO NOT OPEN!
ATTENTION
RISQUE D'ÉLECTROCUTION !
NE PAS OUVRIR !

注意

感電の.恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル（¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル）を使用してください。

注意

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

注意

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

注意

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用の前に良くお読みください。

注意

1. 取扱説明書を通してご覧ください。

2. 取扱説明書を大切に保管してください。

3. 警告に従ってください。

4. 指示に従ってください。

5. 本機を水の近くで使用しないでください。

6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。

8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ(三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広くなっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2022 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

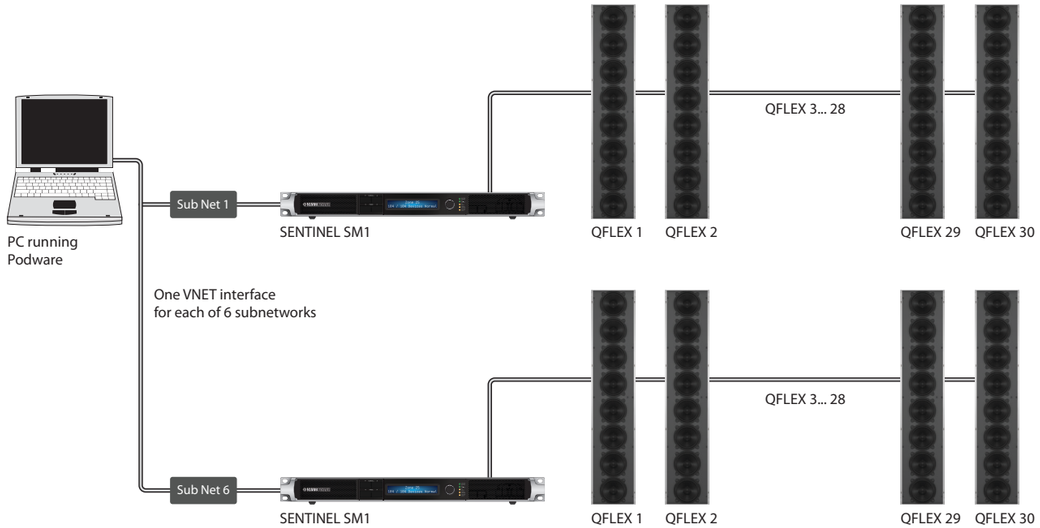
前書き

Sentinel SM1 システムモニターは、ミッションクリティカルなアプリケーション向けの完全なシステム全体の障害監視およびレポートソリューションを提供します。Sentinel は、実績のある信頼できる処理「エンジン」に基づいて構築されており、オーディオシステム、および必要に応じて制御 PC を監視します。問題は、システムのメイン監視パネルへのリレー接点を介して報告されるだけでなく、Sentinel のフロントパネルディスプレイとブザーにも表示されます。複数のセンチネルは、二重の冗長監視を必要とするシステムについて、相互に同じネットワークを同時に監視することもできます。

Sentinel SM1 システムモニターは、極めて重要な VNET ネットワークアクセサリであり、信頼性と実証可能な機能を必要とする機密性の高いアプリケーションでシステムの整合性を保証します。SM1 は、同じ VNET ネットワーク上のすべてのデバイスのステータスをチェックして、注意が必要な欠陥やパフォーマンスの欠如を探します。SM1 は、スタンドアロンで使用することも、PodWare ソフトウェアアプリケーションとともに使用することもできます。システムに欠陥が見つかった場合は、フロントパネルのインジケーターに明確な表示が表示され、バックライト付き LCD に補足情報が表示されるため、問題をすばやく特定して診断できます。包括的なリレー接点のセットにより、火災パネルなどの別の監視システムに欠陥を報告できます。

コンパニオンの PodWarePC Windows アプリケーションは、MonIcon と呼ばれる小さなパネルを使用して、SM1 に関するすべての重要なステータス情報を一目で表示します。この小さなパネルから、システム全体のステータスを確認できます。フルコントロールパネルは、MonIcon からワンクリックでアクセスできます。フルコントロールパネルから、Sentinel の操作の細部を調整するのは非常に簡単です。ただし、ほとんどの場合、実行する設定はありません。

次の図に示すように、VNET ネットワークに挿入された Sentinel SM1 は、各ネットワークデバイスの問題、ネットワーク全体を監視し、PC を含む「欠落している」デバイスを報告します。SM1 も自身を監視し、問題がネットワークの「アラーム」をトリガーします。これには、正常、チェック、または障害があります。



JP

製品説明

フロントパネル



スクロールボタンを使用すると、特定のページのいくつかのアイテムをスクロールできます。

ページボタンを使用すると、ディスプレイの表示を変更できます。ディスプレイ（および適切な場合はエンコーダー）を特定の機能またはパラメーターに向けます。詳細については、「センチネルのナビゲート」セクションを参照してください。

エンコーダー（ロータリーコントロールノブ）を使用すると、パラメーターを調整できます。通常、値を増やすには時計回りに、値を減らすには反時計回りに行います。

[システムモニター] パネルの[システムステータス]領域には、システムの状態が表示されます。

システム正常 – 問題が見つからない場合に点灯します。このインジケータは、PC 障害、システムチェック、システム障害のいずれかが点灯している場合は暗くなります。

PC オンライン – **PodWare**アプリケーションを実行している制御コンピューターがこのシステムモニターにアクティブに接続されている場合に点灯します

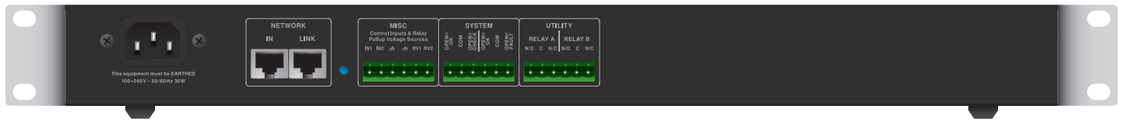
PC の障害 – PodWare がシステムモニターにオンラインでないときに点灯します。ユニットはそのような接続を期待するように設定されました。

チェックシステム – 監視対象デバイスの1つが、注意が必要な可能性のある異常を検出したが、パフォーマンスの重大な低下を引き起こしていない場合に点灯します。

システム障害 – 監視対象デバイスの 1 つが、エンジニアの注意を必要とする障害を検出したときに点灯します。

ユニットの起動時に、「ランプテスト」を実行します。フロントパネルのすべてのインジケーターが点灯するため、それらが機能していることを確認できます。また、ユニットがデバイスを検出しているときにランプテストを実行します。このプロセス中にネットワーク上のインシデントを検出していないことを警告します。

後面パネル



BvNet ネットワーク

In: PC から派生した「インバウンド」接続の場合

リンク: 他のデバイスへの接続用

デバイスは任意の順序で接続できることに注意してください。デバイスは、このデバイスから「アップストリーム」か「ダウンストリーム」かを監視されます。

その他

In1、In2: ロジック入力をデバイスに供給するために使用されます（現在実装されていません）

Gnd: アース、Ov、ロジック入力または電圧出力と組み合わせて使用されるアース基準。

RV1、RV2: 外部装置に通電するための電圧出力。+ 15 V が利用可能であり、内部 1000 オームの抵抗によって保護されています。

システム

チェック:「チェック」インシデント状態を表す 3 つの端末。チェックインシデントがない場合、COM 端子は「Open = ok」端子から切り離され、「open = check」端子に接続されます。チェックインシデントが存在する場合、COM 端子は「open＝check」端子から切断され、「Open＝ok」端子に接続されます。デバイスに電力が供給されていない場合、COM 端子は「open＝check」端子から切断され、「Open＝ok」端子に接続されます。

障害:「障害」インシデント状態を表す 3 つの端末。障害が発生していない場合、COM 端末は「Open＝ok」端末から切断され、「open＝fault」端末に接続されます。障害インシデントが存在する場合、COM 端末は「open＝fault」端末から切断され、「Open＝ok」端末に接続されます。デバイスに電力が供給されていない場合、COM 端子は「open＝fault」端子から切断され、「Open＝ok」端子に接続されます。

ユーティリティ

リレーA: デフォルトのアクションが PC 切断障害があることを示すことである 3 つの端末。PC 障害がない場合、COM 端子は「N / O」端子から切り離され、「N / C」端子に接続されます。PC 障害が発生すると、COM 端子は「N / C」端子から切り離され、「N / O」端子に接続されます。デバイスに電力が供給されていない場合、COM 端子は「N / C」端子から切り離され、「N / O」端子に接続されます。

リレーB: 現在実装されていません。

インストールとセットアップ

デバイスは、一意のハンドルとランダムに割り当てられたリンクアドレスによってネットワーク上で識別されますが、一意性がチェックされ、システムにオンラインで接続するときに PodWare によって修正されます。デバイスのネットワークが新しくインストールされたら、最初に PodWare を使用してネットワークにオンラインで接続し、このチェックプロセスが完了していることを確認します。PodWare が初めてすべてのデバイスを検出するのを待ちます。これが完了するまで、Sentinel をネットワークに接続しないでください。

インシデントを Sentinel に報告するデバイスを識別できるように、ネットワーク上の各デバイスにはデバイス名を付ける必要があります。これを行う方法の詳細については、メインの PodWare ヘルプファイルを参照してください。

デバイスのネットワークに接続しているときに Sentinel の電源を入れるか、デバイスのネットワークが動作中に Sentinel に接続されている場合、Sentinel はネットワーク上のすべてのデバイスを検出し、それらの監視を開始します。新しいデバイスを検出している間、すべてのフロントパネルのインジケーターが点灯し、このプロセス中にインシデントが監視されていないことを警告します。多数のデバイスの場合、このプロセスには数分かかる場合があります。

Sentinel または PodWare のいずれかがシステムにオンラインである場合、ネットワークパフォーマンスが向上します。両方がデバイスの大規模なネットワークにオンラインである場合、操作は遅くなります。Sentinel と PodWare の両方を大規模なネットワーク（たとえば 24 台以上のデバイス）にオンラインにする必要がある場合は、Sentinel を最初にオンラインにして、すべてのデバイスを取得できるようにしてから、解決したら PodWare をオンラインにします。

センチネルでのナビゲート

あなたが見ることができる多くの「ページ」があります。「<」ページボタンを使用して前のページを表示するか、「>」ページボタンを使用して次のページを表示します。

調整可能な場合は、エンコーダーを使用してアイテムの値（パラメーター）を調整します。アイテムが調整可能でない場合、エンコーダーはアクションを実行しません。

ページは次のとおりです。

- コントラストの表示
- デフォルト情報（デフォルトページ）
- インシデント（履歴、他の人のためのスクロール）

一部のページ（インシデント履歴など）では、アイテム間をスクロールできます。「V」スクロールボタンを使用して前のスクロールアイテムを表示するか、「^」スクロールボタンを使用して次のスクロールアイテムを表示します。

デフォルトでは、ディスプレイには通常、このデバイスの名前、ネットワーク上で検出された他のデバイスの数、およびアラームステータスが表示されます。

MyDeviceName
27/28 デバイス通常

「正常」という言葉は、監視対象のデバイス間でアクティブなインシデントがないことを示します。ディスプレイには、予想される 28 台のうち、27 台のデバイスがネットワーク上で検出されたことが示されています。アクティブなアラームインシデントがある場合、デフォルトのページは次のようになります。

MyDeviceName
28/28 デバイス障害>

障害インシデントの場合。または (小切手インシデントの場合):

MyDeviceName
28/28 デバイスチェック>

アラームインシデントの詳細は、「>」ページボタンをクリックしてアラームインシデント履歴ページに移動することで表示できます。チェックインシデントの場合、インシデントは次のようになります。

JP

8.3Dys 前 DeviceName03

CHK アンプ温度

これは、経過時間（インシデントが終了してからの日数-この場合は 8.3日前）、インシデントを発生させたデバイスの名前 ("DeviceName03")、インシデントの種類（Check）、およびアラーム名 ("AmplifierTemperature」）。インシデントが 160 日以上経過している場合、経過時間は「> 5 か月」と表示されます。Sentinel ユニットの電源が切断されてから再適用された場合、電源がオフになっているときにタイマーが実行されないため、経過時間の表示が不正確になる可能性があります。

障害インシデントは次のようになります。

27Dys 前 DeviceName04
FLT パイロットトーンが失われました

インシデントがまだ存在する場合、経過時間は **NOW** として表示されます。

****現在** DeviceName02**
CHK DriverImpedanceChanB

ローカルアラーム（監視対象デバイスからではなく、Sentinel ユニット自体から報告されるアラーム）は、問題のあるデバイスの DeviceName が Sentinel 製品の名前であることを除いて、まったく同じ方法でディスプレイに表示されます。

**** NOW ** MyDeviceName**
FLT WrongNumberOfDevices

「Ú」、「Ù」スクロールボタンをクリックすると、インシデント履歴の他のアイテムを表示できます。通常、最新のインシデントが表示されます。「v」スクロールボタンを繰り返しクリックして、古いインシデントを表示します。

デフォルトページから「<」ページボタンをクリックすると、ユーティリティページが表示されます-コントラストの表示:

Util Screen
1 100%

PodWare での Sentinel の使用と制御

PodWare アプリケーションの詳細については、一般的なソフトウェアドキュメントを参照するか、メインアプリケーションのヘルプボタンをクリックしてください。

デバイスアラームインシデント

アラームインシデントは、必要な機能を実行する能力に関して、システムモニターまたは PodWare アプリケーションにデバイスのステータスを通知する統一された方法です。

アラームインシデントを使用して、デバイスはいくつかの重要なパラメータの現在の状態を報告する場合があります。それぞれの状態は、正常、チェック、または障害のいずれかになります。後者の 2 つのうちの 1 つが発生した場合は、インシデントと見なされます。チェックインシデントは、製品のパフォーマンスに影響を与える可能性があるものですが、デバイスは人間の介入なしに完全なパフォーマンスを復元しようとしています。

障害インシデントとは、製品のパフォーマンスに影響があり、デバイスが人間の介入を必要とするインシデントです。

システムモニターと同じネットワークに接続されている互換性のあるデバイスの動作状態は、システムモニターによって監視されます。監視対象のすべてのデバイスの中で最も深刻なアラームは、システムモニターによって示されるシステムの全体的な状態を決定します。

デバイスからのインシデントが一時的に無視されるように（たとえば、エンジニアの出席を待っている間）、各デバイスには現在のアラームレベルを無効にする機能があり、デバイスはアラームを報告しなくなり、インシデントが発生します。システムモニターでは検出されません。その後に発生するより深刻な事件は、引き続き尊重されます。

システムモニター自体が、PodWare アプリケーション（または実際には別のシステムモニター）が検出して示す可能性のある「ローカル」アラームインシデントを生成する場合があります。

PodWare アプリケーションのネットワークツリーは、緑=正常、黄色=システムのチェック、赤=システム障害の規則を使用して、互換性のあるデバイスのアラーム状態も示します。一部のデバイスでは、システムモニターで使用されるアラームシステムと互換性を持たせるために、ファームウェアの更新が必要になる場合があることに注意してください。

ユーザーコントロール

システムモニターの PodWare アプリケーションのコントロールパネルでは、パラメーターを表示および調整できます。パネルには、デバイスとシステムのステータスを表示できる監視パネル（「MonIcon」）、またはシステムモニターのパラメーターを調整するためのすべてのコントロールが配置されているフルコントロールパネルの 2 つの異なる形式のいずれかがあります。フルパネルには、主にセットアップに使用される他のコントロールがあります。

モニタリングセクション（MonIcon）

これにより、デバイス内およびシステム内で何が起こっているかを一目で確認できます。

監視対象システムの全体的な状態を示し、デバイス自体のインジケーターの一部を効果的に複製します。

システム状態（正常、チェック、または障害）。

- システム状態（正常、チェック、または障害）。
- ネットワーク上で見つかったデバイスの数
- 報告を許可する「ローカル」アラーム

「>>」ボタンをクリックすると、ビューをメインパネルに変更できます。

メインコントロールパネル

これにより、デバイス内およびシステム内で何が起こっているかを一目で確認できます。

監視対象システムの全体的な状態を示し、デバイス自体のインジケーターの一部を効果的に複製します。

- システム状態（正常、チェック、または障害）。
- ネットワーク上で見つかったデバイスの数
- 報告を許可する「ローカル」アラーム

「>>」ボタンをクリックすると、ビューをメインパネルに変更できます。

隠しコントロール

ベンダーは、システムの適切な保護を維持するために、パネルの一部のコントロールを非表示にしている場合があります。このような非表示のコントロールは灰色で表示され、調整できません。

データの保存と呼び出し

デバイスデータは、ディスクに保存することも、ディスクから開くこともできます。PodWare デバイス設定ファイル（ファイル拡張子は .dse）には、デバイスをファイルの保存時とまったく同じ状態に復元するために必要なすべてのデータが含まれています。

最後のファイル保存またはファイルオープン以降に現在の設定が変更されている場合は、パネルツールバーの保存アイコンが単色で表示されます。設定がすでに安全である場合、保存アイコンは灰色で表示されます。

デバイスにオンラインでファイルを開くと、新しいデータがデバイスに送信され、デバイスにあったものがすべて上書きされます。これが行われる前に警告が出されます。あるデバイスから保存したデータを別のデバイスで再度開いて、データ入力の時間を節約できます。(設定が重複していると仮定します)

PodWare は常にデータの保護を試み、データの損失を引き起こす可能性のあるアクションを試みている場合は警告します。

ツールバー

ツールバーには、次のワンクリック機能があります。

- 開く-デバイスのパラメータを含むファイルを開きます。開くファイルを選択するように求めるダイアログが表示されます。
- 保存-現在の設定を保存します。ファイル名を入力するように求めるダイアログが表示されます。最後にファイルを保存または開いてから設定が変更されていない場合、アイコンは灰色で表示され、保存が不要であることを示します。
- 検索-デバイスの識別を支援し、通信が機能していることをすばやく確認するために、ディスプレイにメッセージを点滅させます。これはオンラインの場合にのみ機能します。
- ヘルプ-（これを）パネルヘルプを起動します

JP

キーボードショートカット

PodWare は、次の「ショートカット」をサポートしています。

タブ次のコントロールに移動

値ボックス:

CTL+C	コピー
CTL+V	ペースト
CTL+X	切る
CTL+Z	元に戻す

0 ドロップダウン、スピン、プッシュ、フェーダー、およびラジオコントロール：

PgUp	値を増やす（粗く）
PgDown	値を減らす（粗く）
上 / 右矢印	値を（細かく）増やす
下 / 左矢印	値を減らす（細かく）

押しボタンコントロールの場合:

スペース	アクティベート

インシデント履歴

新しいアラームインシデントが発生するたびに、インシデントの詳細がインシデント履歴と呼ばれる有限長のリストに入力される場合があります。

インシデントは、リストにスペースがある場合（期限切れのインシデントを削除できる場合）、または新しいインシデントがリスト内の最も重大度の低いアクティブなアラームよりも重大である場合（そのインシデントが削除される場合）にのみリストに入力されます。リスト）。

最新のインシデントはリストの最後に表示され、古いインシデントはリストのさらに後ろに表示されます。インシデントは、アラームインシデントが存在しなくなってもリストに残り、インシデントがリストの最後から外れるまでリストに残ります。

存在しなくなったインシデントには、インシデントが現在発生してからの経過時間（アラームインシデントが終了してからの経過時間）がエントリにマークされます。まだ存在するインシデント（アラームインシデントはまだアクティブです）は、経過時間ではなく「**NOW**」として表示されます。

インシデント履歴ページがディスプレイに表示されている場合、スクロールボタンを使用して履歴エントリ間をスクロールできます。

インシデントのリストは、電源を入れ直しても存続できるように保存されます。

技術仕様

コネクタ	
その他	2 x3 ピンフェニックス
システム	2 x3 ピンフェニックス
ユーティリティ	2 x3 ピンフェニックス
通信網	2 x RJ45
表示	
メインディスプレイ	現在のステータス / チェック/障害状態の履歴
LEDs	システム正常（緑） PC オンライン（緑） PC 障害（黄色） チェックシステム（琥珀色） システム障害（黄色）
力	
スイッチモード電源	オートレンジ 100-240V（50/60 Hz）
消費電力	30 W
主電源接続	標準 IEC ケーブル
物理的	
標準動作温度範囲	0~＋55℃
湿度	0~80% RH（結露しないこと）
寸法（HWD）	49 x 483 x 165 mm（1.9 x 19 x 6.5"）
重量	2.0 kg (4.4 ポンド)

その他の重要な情報

JP その他の重要な情報

1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:
ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230 V と 120 V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。

2. 故障: Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにないときは、musictribe.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お 客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。

3. 電源接続: 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

KLARK TEKNIK